

# 身体語彙を含む慣用句についての日中対照研究

## A Comparative Study on Idiomatic Phrases with Body-parts Terms between Japanese and Chinese

言語文化研究科 日本文化専攻 1000-100801 田 陽

### 1 はじめに

日本語には、たくさんの慣用句がある。中でも、身体語彙を含む慣用句は重要な役割を果たしている。身体語彙を用いる慣用表現は文字通りの意味だけでなく、比喩的に別の意味も表す。例えば、日本語の「首を切る」は中国語の「斬首」と対応しているけれども、「首を切る」は慣用句として、「免職・解雇する」という意味を持っている。このように、辞書を利用しないと、意味を間違えることが多い。また、日本語と中国語の慣用表現には、対応しているものもあり、対応していないものもある。だから、中国人の日本語学習者にとって、身体語彙を含む慣用句を理解することが困難である。

### 2 研究の目的

本研究の目的は、対照言語学の視点から、日中の身体語彙が慣用表現の中でどのような認識や感情などと結びついているのかを比較して、身体語彙を用いる慣用句の意味及び使い方を分析し、日中の両言語の共通点と相違点を明らかにすることを目的とする。そうすると、両国の文化と、両国の人々の考え方、心理などを深く理解できると思う。

### 3 研究の方法

本論文では、日本語と中国語における身体語彙の「頭」「首」「胸」「腹」「背」

「腰」「尻」(中国語では「屁股」)を用いた慣用句を主たる研究対象として、日中の両言語における実際例を比較・分析した上で、それらの比喩的な意味及び実際的な使用場面などを検討して、日本語と中国語の共通点と相違点をまとめる。

#### 4 分析結果と考察

##### I : 共通点について

- (1) 日本語の「頭」と中国語の「头」は「最初」という意味を表すことが共通する。
- (2) 日本語と中国語における「首」の慣用句は、生命とかかわる意味を表すことがほぼ共通する。また、両言語とも「首」を使い、待ちこがれる気持ちをいう場合がある。
- (3) 日本語でも中国語でも、胸は「心」が収まる部分であることから、両言語とも「胸」が「心の中の考え」という意味とかかわる慣用句がある。
- (4) 日本語と中国語における「腹」は「心や心の中にある考え」という意味を表すことがほぼ同じである。
- (5) 日本語でも中国語でも、「背」は体の後ろ側に位置することから、「そむく」ことを喩えて言うのに用いられる。
- (6) 日本語でも中国語でも体がかがめる場合、「腰」は要の役割を果たしていることが共通するので、両言語とも「腰」を、人に屈してへりくだることの喩えに用いる。
- (7) 日本語でも中国語でも「尻」(中国語では「屁股」という)は汚れる部分であることから、両方とも「尻」(中国語の「屁

股)は「人の失敗や不始末」などの喩えとして用いられる。

## Ⅱ：相違点について

- (1) 日本語の「頭」を用いた慣用句は、「引け目」「困り」「照れ」「謙虚」などの態度を表したり、「怒り」の感情を表したり、「知恵・思想」を表すような場合も多い。しかし、このような意味・用法は中国語にない。
- (2) 日本語の「首」を使った慣用句は、「疑問」「賛成／反対」「困窮」などの様子を表したり、職に関係する意味も表すが、そのような意味・用法は中国語にない。それに対し、中国語では「首」を使い、「最初」「リーダー」「犯行を告発する」というような意味を表すが、そのような使い方は日本語にない。
- (3) 日本語の「胸」を使った慣用句は、「喜び」「期待」「不安や心配」「悲しみ」「怒り」などの気持ちを表すのに対し、中国語では気持ちを表す場合に「胸」を使わず、「心」を使うことが多い。
- (4) 日本語の「腹」を使った慣用句には、「怒り」「覚悟・決意」「人の陰険な性格」を表す場合があるのに対し、このような意味とかかわる言い方は中国語にない。
- (5) 日本語には「背」を使って、「危機を脱するための犠牲はやむを得ない」という意味を表す慣用句がある。それに対し、中国語には「背」が「離れる」「身代わり」などの意味とかかわる表現がある。
- (6) 日本語の「腰」を使った慣用句は、「途中で気力や勢いを失

って、物事を続けられなくなる」ことを意味したり、「粘り気や弾力が強い／弱い」ことを表したり、「びっくり仰天する」ことを表すが、このような意味・用法は中国語にない。一方、中国語の「腰」には「敬服する」「後押しをする」という意味とかかわる表現があるが、そのような意味・用法は日本語の「腰」にない。

(7) 日本語の「尻」(中国語では「屁股」という)には「慌てるさま」「居直る」「長居をする」「専心する」「気軽」「軽率」などの意味とかかわる慣用句がある。しかし、このような意味・用法は中国語の「屁股」にない。

## 5 おわりに

本論文は、日本語と中国語における身体語彙の慣用句を対照言語学の立場から比較した結果、日本語の身体語彙とそれを使った慣用句の意味と用法をある程度明らかにできた。この成果は日本語教育にも役立つ。今後は、研究範囲を広げ、例えば、「手」「足」「顔」(「目」「口」「鼻」「耳」)などのもっと広い範囲の語例を収集し、特に、日本語と中国語における身体語彙を用いた慣用句の対応性と非対応性に関して、その相違点と共通点についての解釈を深めて、その上で、それらが何を意味するのか、そのような問題をもっと究明したいと思う。